



2016年1月26日(火)～2月14日(日)

めぐるりアート静岡

会場：ギャラリー・とりこ

ツムルツナガル ポートレート

めをツムル。こころツナガル。



ツムルツナガル ポートレート

333枚の「目を閉じた」写真。ここにうつっているのは、年齢、性別、国籍、障害の有無をこえて、この地に住まい、または縁のある、約530人の方々です。

その多くは私が撮影しましたが、協力者が撮影してくださったものも含まれています。そのことで、新たなつながりが生まれることを求めていました。

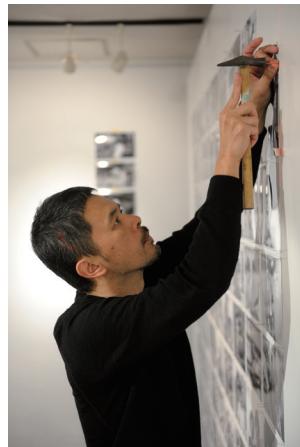
撮影を進めていく中で、出会った方々の多くは快く撮影に応じてくださいましたが、承諾を得るのにとても時間がかかることもありました。また、驚くようなご縁もあり、それら全てが私にとって素晴らしい経験でした。

「目を閉じた」写真には、自分では気づかない自身の表情や、普段見ることのできない他者の表情がうつし出されています。その表情を眺めると、自分自身や他者との距離がぐっと縮まります。

約四半世紀前になりますが、静岡で過ごした4年間の大学生活は、様々なひとや考え方で触れる貴重な時間でした。再びこの地でたくさんのひとに出会い、支えられ、本展を開催できることは感慨深いものがあります。

本展が、地域に住むひとたちのつながりを見つめ直し、さらには多くの「こころ」がつながる場となることを願っています。

成実憲一



成実憲一(なるみけんいち)

1971年京都市生まれ。1994年静岡大学教育学部卒業。1994年より京都を中心に絵画、立体、写真などの作品を発表。2000年より障害者福祉に携わり、障害のあるひとたちの表現を集めた展覧会の企画やアートギャラリーの開設・運営をおこなう。2013年にヴァリアス・コネクションズを立ち上げ、「アート」や「福祉」の枠を超えた活動を展開している。



2015.10.10 静岡浅間神社

わたしたちのまち × アート × いろいろなひと

成実憲一は、京都の障害者施設で働きながら、ヴァリアス・コネクションズというアート・プロジェクトを展開している。それは、障害のある人がアートを通して社会とつながるために、成実によって立ち上げられた市民団体である。

「わたしたちの住むまちには、いろいろなひとがいます」、これは昨年2月、そのヴァリアス・コネクションズが開催した『ヤマシナポートレート』展のコピーの言葉。そしてチラシには、「年齢や性別、障害の有無などに関わらず、山科区にゆかりのひとたち約300人の『目を閉じた』写真を展示し、多くのひとがつながる場を生み出していく」というメッセージが続く。

そんなプロジェクトを静岡で実施する、それには遠距離ゆえの制約は避けられない。また、「わたしたちの住むまち」をどのように定めたらよいのか。広すぎてはならず、狭すぎてもいけない。。。静鉄新静岡駅に程近い、ギャラリーとリコ周辺のゆるやかな生活圏。そこは、市中心の繁華街、市役所、県庁、駿府城趾の公園、その周囲の病院や学校、さらに住宅地に連なる。成実は、それらの場所を「めぐるり」し、気になる人に声をかけカメラにおさめた。

「いろいろなひと」という意味では、そんな偶然の出会いに加え、ネットを使い、思い浮かぶキーワードを検索にかけ、団体や個人に接触を始めた。そこで結ばれた、県・市の社会福祉協議会、福祉と企業・地域を結ぶNPO法人、また静岡日仏協会などを起点に協力の輪が広がっていったという。

「目を閉じる」「まぶたを閉ざす」「瞑目する」、そして「目をつむる」。それらの言葉には、ネガティブな響きも含まれる。ただ「瞑目」が祈りに通じるように、「障害の有無などに関わらず、多くのひとがつながる場を生み出す」という成実の呼びかけに応えた人々のさりげない仕草は、かけがえのない生命(いのち)のポリフォニーとなつて来場者をつつむ。

白井嘉尚



白井嘉尚(しらいよしひさ)

1953年静岡県生まれ。1979年東京藝術大学大学院修士課程修了。静岡大学教育学部教授、絵画分野を担当。美術展の企画者としても様々な活動を展開。平成25年度から27年度まで、文化庁助成による静岡大学アートマネジメント力育成事業の実施委員長を務める。

開催の歩み

2015年

- 6月7日 プロジェクト始動:「ギャラリーとりこ」下見～撮影のアポイントメント開始
8月23日 撮影: 人形劇あっぷっぷ、駄菓子屋 Poco、ギャラリーとりこ周辺
24日 撮影: カフェ369、スノドカフェ七町、ギャラリーとりこ～城東保健福祉エリア～
静岡市役所周辺
プレゼンテーション: 静岡大学アートマネジメント力育成事業(ギャラリーとりこ)
25日 撮影: ギャラリーsensenci、ギャラリーとりこ周辺
10月10日 撮影: アトリエ・ニケ、駿府城公園～水落町・安東～静岡浅間神社～静岡市役所～常磐公園周辺
11月10日 撮影: 田辺信宏静岡市長、静岡県授産製品コンクール、静岡県障害者アーチェリー協会、
新静岡駅(静岡鉄道)～静岡市役所周辺
23日 撮影: 駿河ふれあいふくしフェスタ(静岡県立大学短期大学部)、水落町・安東、焼津駅周辺
12月17日 撮影(佐野翔): 安東地区社会福祉推進協議会「くすのきの会」
18日 撮影: 静岡市心身障害者ケアセンター、静岡大学(人文社会科学部言語文化学科「情報意匠論」、
人文社会科学部イングリッシュ・カフェ、教育学部美術科)
19日 撮影: 久能屋、静岡ねこの会、金座ボタニカ、菊川市役所中央公民館、新静岡駅(静岡鉄道)周辺
22日 撮影(佐野翔): ツインキッズ

2016年

- 1月27日 「ツムルツナガル ポートレート」展初日
2月14日 最終日: アーティストトーク



撮影風景 アトリエ・ニケ



搬入風景 協力: 佐野翔 立山都



会場風景



2015.11.10 静岡市役所新館 市長室

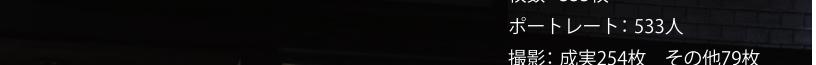


アーティストトーク 成実憲一×白井嘉尚



写真

材料他: インクジェットプリント
サイズ: 173×260mm
枚数: 333枚
ポートレート: 533人
撮影: 成実254枚 その他79枚



撮影協力: 佐野翔・三好景子(静岡大学学生) 武田幸穂(静岡福祉大学学生) 若澤誠(イベントフォトグラファー)

板倉りえこ(静岡大学アートマネジメント力育成事業受講者)

協力: 社会福祉法人静岡県社会福祉協議会 社会福祉法人静岡市社会福祉協議会 公益財団法人静岡県障害者スポーツ協会 褐野市健康福祉部障がい福祉課

NPO法人口ルしづおかベストコミュニティ アトリエ・ニケ 今野喜和人(静岡大学人文社会科学部長・静岡日仏協会理事) 杉村陽子(経糸の会)

いろいろなこえ

この展覧会への被写体募集のご相談をいただいたのは前年の夏でした。当初は「目を閉じた写真で、人やこころをつなぐ」とのイメージがわきにくかったのですが、京都の展覧会写真を拝見すると「目をツムル」を通して文字通り「一人一人がつながっている」ことを実感。この気持ちを地域の皆さんと共有したい、また社会福祉協議会は「人と人をつなぐ」ことが使命であることから、是非ご協力したいと強く思いました。そして、高齢者サロンや障害者ディケアなど大勢の方にお声かけをしたところ、この新しい試みに関心を持たれ、快く引き受けさせていただきました。特にご年配の方は撮影されることに恥ずかしいと思われるか心配ましたが、それも杞憂でした。このような人と人が“ツナガル”写真展を静岡で開催していただいたこと、またこの展覧会のお手伝いをさせていただけたことに感謝申し上げます。

阿部修(社会福祉法人静岡市社会福祉協議会)

5年前から開催している障害のある息子の絵画展。その展覧会場である「NPO法人オールしおかべストコミュニティ」さんから写真展のお話をうかがいました。障害があっても無くともみんなで目をつむる。そのことに共感し、息子と2人で参加させていただきました。隣に並んだ私たちの写真、さらに色んな人の表情を見渡すと、みんなが家族のように感じます。目をつむるという同じ動作を通して、どんな人やどんな所でもみんな一緒なんだなって温かい気持ちになりました。

松井照子(静岡県立掛川特別支援学校御前崎分校PTA会長)

瞳というものは人に訴えかける強い何かを感じさせる。では目を瞑つてしまったら何も感じないのか。いや、そうではない。むしろ、その人の心の中が映し出されるような気がする。成実氏は写真を撮ることで他者とのつながりを重要視していて、こんなにもたくさんの方が快く撮影に協力してくださっているということはすごいことだなと思った。現代社会において人のつながりが希薄になっているけれど、この作品に出会えれば人のつながりっていいなと思える。

梅沢せなみ(静岡大学 学生)



「ぼくは、アーチストじゃありません」と彼は、つぶやいた。この展覧会場で、立ち話をしていたときのことである。大学卒業後、折りに触れて彼の作品を見てきたぼくは、その言葉を、彼らしい「潔い矜持」として受け止めた。彼は、俗に生業と呼ばれるものをもつ生活者であり、それを土台にしてユニークな表現活動を実践している。ある社会学者によれば、表現とは、社会への違和を形にすること、社会は変わりうると信じて動きだすことだという。成実は、社会へ出てから、創作の動きが変わってきた。もし、俗にいうアーチストが、己の内面のみを凝視する性癖をもちやすいとするなら、彼の活動は、「ともに生きるために表現」に変容しつつあるのではないだろうか。この世には、いろいろな表現者がいていいと思うのだけれど、アーチスト意識を棄てて素敵なお生きかたをする成実憲一が、ぼくは、とても好きだ。

木村幸男(元しずぎんギャラリー事務局長)

目をぎゅっとして、顔をぐしゃぐしゃにした私の写真が展示されました。それを見て、みんなが「三好はこの顔でよく笑う」と言っていました。私もこの写真から、一緒に笑ってくれる人を感じられて「私はみんなとこんなふさいくに幸せそうな顔で笑うのか」と嬉しくなりました。どの写真からも、その人だけでなく、周りにいる人のやさしい気持ちや体温が伝わってくるようでした。

三好景子(静岡大学 学生)

平成28年(2016年)1月28日(木曜日) 静岡新聞夕刊

B (4)

めぐるアート静岡
回遊で触れる多様性

「ライティングチェア」を展示する岡本光市さん=静岡市駿河区の県立美術館

梅沢せなみ(静岡大学 学生)

2016年1月26日 SBSラジオ「IPPO」出演
1月27日 「中日新聞」朝刊静岡版掲載
1月28日 「静岡新聞」夕刊掲載

2016年(平成28年)1月27日(水曜日)

めぐるアート静岡
7会場ぐるっと現代アート

「目をつむる」をテーマに撮影された写真=静岡市駿河区で

「目をつむる」表情の写真33枚

くじ引きのお願いに沿って絵を描き貼つけて静岡のワークショップ=静岡市駿河区新屋町で

くじで絵の題、福島の子ら1200枚

県ゆかりの現代作家8人の作品を巡る企画展「めぐるアート静岡」が26日、市内7会場で始まった。自ら絵を描いて飾る参加型のワークショップや、触ったり乗ったりできる造形作品など、多彩なアートを楽しむことができる。無観客。2月14日まで。(荒木正親)

人間形の鉄筋いす

ツムルツナガル ポートレート活動報告(第二版) 発行日:2020年12月1日
編集、デザイン:白井嘉尚 成実憲一 写真:大野仁志 大森恵 成実憲一
発行:一般社団法人ヴァリアスコネクションズ 〒606-8411 京都市左京区浄土寺東田町67番地1 ジュンヒル106号室

MAIL info@various-c.com URL http://www.various-c.com/